

『観光地域振興無電柱化推進事業』を活用した伊勢市の無電柱化事業の取り組み

伊勢市 都市整備部 基盤整備課

1. はじめに

伊勢市は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置する、比較的温暖な気候に包まれた人口12万人都市です。

北は伊勢湾に面し、中央には宮川（みやがわ）や五十鈴川（いすずがわ）、勢田川（せたがわ）が流れ、また、東から南にかけては朝熊岳（あさまだけ）、神路山（かみじやま）、前山（まえやま）、鷲嶺（しゅうれい）が連なり、西には大仏山（だいぶつやま）丘陵が広がる緑豊かな都市でもあります。

伊勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然と美味しい食材に恵まれた本市には、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源があふれています。

また、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、20年に一度の式年遷宮が行われる神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。

この神宮のおひぎ元において、現在無電柱化整備を実施中であり、令和7年度中に完成を予定しておりますので紹介します。



2. 無電柱化事業に向けた取り組み

伊勢神宮の内宮外宮をはじめ、別宮や宇治橋なども造り替えられる式年遷宮は、古くから国を挙げての重要な儀式として行われ、天皇陛下の篤い思ほし召しのもと、国家と国民の平安がお祈りされてきました。

式年遷宮の制度は、これまで20年に一度、1300年にわたり繰り返し行われ、平成25年（2013）で62回を数えました。遥かなる飛鳥時代より続く無双の神事です。

伊勢の住民（旧神領民）が中心となり、式年遷宮を奉祝する賑やかな民俗行事も数多く開催されます。「お木曳行事」では、内宮は御用材を木ソリに乗せて五十鈴川の中を曳き、外宮は奉曳車に乗せて陸路で奉納します。

各奉曳団の「エンヤ！」の威勢のよい掛け声と木遣り唄が響いて、伊勢の町は活気と笑顔に満ち溢れます。



御樋代木奉曳

御遷宮の御用材を運搬するお木曳行事が、令和8年、9年に予定されています。外宮へのお木曳きは、宮川から曳き上げた御用材をどんでん場で水を切ってお木曳車に積み込むことから始まります。木遣り唄を歌いながら地域を賑やかに練り進む、活気と迫力に満ち、地域の特色を深く体現するものです。

平成21年に策定した伊勢市景観計画では、景観重要道路の一つにお木曳の道を位置付け、整備に関する方針に「歩道及び車道から周辺への眺望を妨げないように、無電柱化等の検討や調整をすすめる」と明記しました。お木曳の道のうち、県道伊勢南島線は緊急輸送道路に指定されていることもあり、この県道部分では県事業として無電柱化工事が進められており、令和15年までに完成する見込みで計画通り進展しております。

一方で、県道から外宮の北御門への導入路となる約50メートル区間は、お木曳の最終エリアとなりますが、市道（本町2号線）であり、緊急輸送道路でもないため、無電柱化工事の対象となっていませんでした。

お木曳行事は、数ある遷宮関連祭事の中でも住民が参加できる数少ない機会であり、全国からのたくさんの方が訪れ、写真や動画の撮影の機会となります。

無電柱化事業は、事業期間や財源確保が大きな課題となっていました。各電線事業者の意向確認をしたところ、単独地中化方式で無電柱化事業を進めることが可能であり、また、お木曳行事までに事業を完

了できる可能性があることがわかり、大きな転機となりました。また、観光庁の「観光地域振興無電柱化推進事業」の条件に該当することがわかり、課題であった財源の確保の目途がたち、事業に着手をいたしました。



イベントの様子



現況写真



抜柱イメージ

この事業概要は以下のとおりです。

事業概要

- ・事業主体：中部電力パワーグリッド株式会社
- ・事業手法：単独地中化
- ・事業箇所：市道本町2号線（三重県伊勢市本町地内）
- ・事業延長：60m
- ・事業内容：抜柱4本、管路埋設・電線撤去60m
- ・事業期間：令和6年度～令和7年度（現在実施中）

事業目的

- 20年に一度行われる神宮の式年遷宮に必要な御用材を内宮・外宮の宮域に運び込むお木曳行事が、令和8年から令和9年に実施予定。
- お木曳のルート最終エリアとなる当該地区において無電柱化事業を実施することで、お木曳行事が映える美しい景観の形成を図る。

事業内容

- ・事業主体：中部電力パワーグリッド
- ・事業手法：単独地中化
- ・事業箇所：市道本町2号線（三重県伊勢市本町地内）
- ・事業延長：60m
- ・事業内容：抜柱4本、管路埋設・電線撤去60m
- ・事業期間：令和6年度～令和7年度

観光振興への寄与度

<地区のポテンシャル>

- ・観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地（R5.3）
 - ・伊勢の「お木曳」行事は文化庁の選択無形民俗文化財
- <インバウンド（外国人観光客）>
- ・R元神宮参拝者数（外宮）21,863人（R4観光統計（資料編））

事業箇所



※抜柱イメージは加工処理したもの。

現在の進捗

現在、地域住民や観光イベント等の制約が多い中、電線管路埋設が一部完了し、無電柱化へ向け進めています。

事業効果

安全・安心の向上

無電柱化によって、地域住民や観光客が安心して過ごせる環境が整い、災害時の安全性や日常の歩行環境が改善される効果が期待されています。

行事の安全性向上

お木曳の行列において電柱や電線が障害物となるリスクを排除することで、行事自体の安全性を向上させることを目指しています。

美しい景観の形成

無電柱化によって、景観がより洗練されることで、地域全体の魅力が高まります。「お木曳」のような伝統的な行事が行われる際、その美しさがより際立つという効果が期待されています。

地域および観光への貢献

景観の改善と行事の魅力向上により、地元住民の満足度はもちろんのこと、国内外からの観光客にも強いアピールとなり、地域活性化に繋がるのが期待されています。

3. 最後に

現在の段階ではまだ取り組みの途中であり、完成には時間を要する状況ですが、このような取り組みは伝統行事と地域との調和を目指した施策であり、地元の文化的価値の保護と未来への継承に寄与する意義深い事業と言えるでしょう。